

三重PECS研究会 第16回研修会報告

～肢体不自由児のケース発表～

日時	2017年5月28日(日)13:00～16:00
場所	三重県立特別支援学校 伊賀つばさ学園 多目的ルーム
参加人数	14名
内容	<p>1. ケース発表</p> <p>(1)発表内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ つばさ学園の概要説明(開校 22 年目。全校児童生徒 147 名。知的障がい、肢体不自由の児童生徒が通学・訪問)。・ ケースの児童は、現在中学部。小学部在籍時の実践発表。・ 主障がいは、肢体不自由。右半身に強い麻痺がある。手引きや歩行器を使つての歩行学習を行っている。・ 小学部 3 年生までは、「はい」やトイレに行きたい時「しー」と伝えてくることがあった。また、「ママ」「パパ」と言うこともあった。6 年生の 2 学期から表出しなくなった。・ 絵カードの学習は、着替え(服やズボンの種類)、トイレ(洋式か着替えのトイレか)、活動の選択(トイレか給食か)を行っていた。しっかり意思表出できた。・ 課題は、「強化子がわからない」、「リハビリに時間を要するため、コミュニケーションの学習の時間が確保できない」、「保護者のニーズが身体の動きが主。中学部ではコミュニケーションの学習をほとんど行っていない」など。 <p>(2)質疑応答</p> <p>(質1)ことばが出なくなったとのことだが、身体面は？</p> <p>→(答1)身体は変わりなく、ことばが出なくなった。</p> <p>(質2)トイレに行きたい時、「しー」と言わなくなったのは、なぜ？</p> <p>→(答2)定時になったら誘うし、絵カードで選択もできた。おもらした時は、自分からの要求はなかった。</p> <p>(質3)発声はないとお聞きしたが、自発的に伝えることはあったか？ あつたらどんな時に？</p> <p>→(答3)左手で服をつかんだ。いろいろな場面であつたが、絵カードを見せると、選択した。</p> <p>(質4)食べる時は、自分で食べている？</p> <p>→(答4)スプーンの上に食べ物を乗せ渡すと、自分でスプーンを口に運んで食べている。食べたくない時は、スプーンを手放したり、手で払いのけたりする。</p> <p>(質5)カード 2 枚選ぶのはいつから？ ずっと 2 枚？</p> <p>→(答5)休み時間は、3～4 枚。「座っている」、「歩く」、「歩行器」などから選択。</p>



	<p>2. グループ協議</p> <p>(1)正会員グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関わる人の指示や援助が多いと、プロンプト依存になってしまうから注意する。逆にことばも出にくくなるのではないか。自発的に発信するコミュニケーションの学習を進める必要がある。 ・ 自分でブックの場所に移動できなかつたら、VOCA(音声出力機器)を活用する。VOCA で先生を呼び、ブックを渡してもらい、カードを渡す学習を行う(確立操作)。 ・ 身体運動の中でも常にコミュニケーションをとっている。別の時間の設定でなく、身体運動の学習の中でコミュニケーションの学習も進めてみてはどうか。 ・ 学習は、楽しく進めていく必要がある。 <p>(2)準会員グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化子アセスメントの大切さがわかった。 ・ また、自発のコミュニケーションの大切さもわかった。自発のコミュニケーションが行動の主体性につながることもわかった。 ・ 指導者の援助を素早くすることの大切さがわかった。スモールステップで進めていく大切さも。 <p>3. 助言者の先生から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由のお子さんは、手の操作性や移動が課題になるが、工夫で何とかなることが多い。 ・ PECS は大変優れているので、ぜひワークショップを受講してほしい。 ・ スケジュールは、ひとり一人に必要。 ・ 先生も楽しんでコミュニケーション学習を進めてほしい。 ・ 門先生から6つのケースを動画とともにご紹介いただいた。肢体不自由でカードを持ちにくい子には、ペットボトルの蓋をカードにつけた。 ・ 始めは絵カードをうまく持てなかった子が、IPECS まで移行したケースもご紹介いただいた。回転寿司で食べたいお寿司を要求したり、自分でアプリの中の絵カードを作成したりできるようになった。 ・ iPECS (Ipad アプリ)のメリットは、カードがすぐ作成できること。シンボルが保存されているし、その場で撮影し加工もすぐできる。
<p>ポイント</p>	<p>4. 今回のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自発的コミュニケーションが大切。 ○ コミュニケーションの学習はどの時間でも可能。